

被災地の災害廃棄物（木材チップ）を市内で処理する方針を発表してから、いろいろなお意見が市に届けられています。市民の皆さんに、現在の状況をお知らせします。

岩手県山田町や大槌町の災害廃棄物（木材チップ）の受け入れについて、ゴミ処理施設のある伊太地区で1月11日、最終処分場のある初倉地区で1月13日、地元の皆さんを対象とした説明会を開催しました。伊太小学校体育館には約290人、初倉公民館には約260人が集まりました。

説明会を通じて「受け入れる災害廃棄物は、放射性廃棄物ではない。島田市の家庭から出されているゴミと同じかそれ以下のもので、安全性に問題は無い。被災地の復興に向けて、ぜひ、皆さんの善意の気持ちにお願いしたい」と、桜井市長をはじめ、環境省の横光克彦副大臣、岩瀬洋一郎静岡副知事などが説明を繰り返しています。

地元住民の皆さんからは「どんなに安全といわれても放射能が怖い。受け入れられない」「将来の子どものために受け入れないでほしい」などといった懸念の声があります。一方で「感情論ではダメ。復興を手助けするべきだ」「根拠のない反対意見はよくない」といった意見も広がっています。

市では、1月17日に大津地区自治会から要請を受け、国・県・市の担当者による説明会を開催しました。今後も自治会などから要望があれば、引き続き説明会を開催していきます。



初倉公民館で開催された地元説明会

賛成

私は島田市に住んでいる中学3年生です。今日、広報島田を読みました。震災の瓦礫受け入れの内容が書かれてありました。私は前からそのことは知っていました。そして賛成しています。

「瓦礫受け入れに対する皆さんからのメール」という見出しがあった、私はみんながどう思っているのか前から気になっていたのです。すぐに読みました。その中の反対意見に、「東北の方はもはや人間のクズである」「岩手県は日本の敵」とありました。それを読んで怒りというか悲しいというかそんなことを思いました。

あんなに大きな地震と津波がきて、考えられないくらいの人々が亡くなって。東北の人には、私たちには考えられないくらい怖さとか、悲しさとか不安があると思います。だから本当にできることはしたいと思っています。

放射線がどんなことに悪いのかとか、よくわかりません。でも、安全の瓦礫とわかっているんだから、受け入れてほしいと思います。

お茶や作物の風評被害も心配されています。みんなはそれが怖くて瓦礫受け入れを拒否しているんですよ。

私も静岡のお茶は大好きです！特に島田のお茶は本当に好きです。そういう誇りのお茶が風評被害でダメになってしまうのは嫌です。でも、東北の人達の気持ちを考えたら、すごく小さいことだと思います。もし、風評被害でお茶が売れなくなってしまうと、みんなが「放射線大丈夫だよ、安全なお茶だよ」って伝えていけばわかってくれるかもしれないって思っています。私の家も少し前までお茶農家でした。（おじいちゃんが病気になるってしまい、今は他のお家に畑をまかせています）だから瓦礫受け入れを拒否する人の気持ちもわかります。でもやっぱり東北の人達に何かしてあげたいです。

瓦礫受け入れをみんなが認めてくれたらいいなと思います。市長さんと同じ、東北の方達の力になりたいという気持ちです。

Q & A

Q 山田町のホームページを見たら、場所によっては受け入れを想定しているもの以上の放射線量が出ていますか。

A 受け入れる災害廃棄物は、安全性が確認されたものに限ります。被災地から島田市に運ぶ間に、放射性物質の測定や空間線量の測定を7回以上行います。その過程で、不適切なものは域内処理として返送されます。普段、田代環境プラザで処理されている一般ゴミと同レベルかそれ以下の災害廃棄物です。

-放射能測定結果-

●島田市で測定した放射線量(H23.12.24) 単位: $\mu\text{Sv/h}$

試料	放射線量
山田町木材チップ	0.09
山田町木材チップの灰	0.10
島田市中心小公園の枝葉	0.11
島田市中心小公園の枝葉の灰	0.13

●枝葉の放射能濃度 単位: Bq/kg
山田町:13.2 志太榛原地域:22.0

Q 溶融による排ガスから放射性物質が拡散しませんか？

A ダイオキシン対策などのため、溶融施設には、排ガス中の

の微粒子の灰を除去する高性能の排ガス処理装置（バグフィルター）が備わっています。これにより放射性物質をほぼ100%除去でき、大気中への放出を防ぎます。

Q 最終処分場に埋め立てた飛灰から放射線、放射性物質が拡散しませんか。また、放射能に汚染された水が排水される心配はありませんか。

A 最終処分場に埋め立てた灰は50cm以上の土で覆うことで、放射線を十分遮へいすることができます。最終処分場の底には遮水シートが敷いてあり、浸透することはありません。

Q 市民のために業務を進めるのが、本来の行政ではないのですか。

A 周辺には浜岡原子力発電所があり、30年以内に東海地震の発生する確率は、88%とも言われています。もし、大震災が発生し、市民の皆さんが被災したときには、自分たちだけの復興は無理です。今回の支援が、必ずや将来を担う島田市の子どもたちのためになると固く信じています。

Q 広報はまだ1月15日号に、なぜ、岩手県を誹謗するメールを紹介したのですか。

A 周辺には浜岡原子力発電所があり、30年以内に東海地震の発生する確率は、88%とも言われています。もし、大震災が発生し、市民の皆さんが被災したときには、自分たちだけの復興は無理です。今回の支援が、必ずや将来を担う島田市の子どもたちのためになると固く信じています。

反対

こんにちは。また瓦礫受け入れを強行するおつもりですか？こんなに市民県民が反対しているのに受け入れる理由は何ですか？被災地復興？ちゃんちゃら可笑しいです。

まず市民の為に動くのが市長でしょう。県民の為に動くのが県知事でしょう。その点では川勝さんもおかしいです。

桜井さんは「絶対安全だ」と言い切っていますね。何を根拠に？「絶対安全だ」と言うのなら、なぜココソコしたのであるか？「絶対安全だ」と言うなら、なぜ市民の未来の補償を確保できないのですか？

「絶対安全だ」と言うのなら、今後あなたが死んでもあなたの家族が未代まで責任をとるくらい約束しても大丈夫ですよ。それとも大丈夫ですか？ね？それもできないのに「絶対安全だ」と言うだけで誰が理解してくれるでしょう？

被災地復興の為に言えば、市民県民の意見なんて無視して自分たちの考えを押し通してよいのですか？

被災地復興の為に言いながら多額の処理費用を受け取るのでしょうか？ 本当に善意でされる

のなら最低限の費用でよいのでは？それが復興につながるのでは？

私たち市民県民は頭ごなしに反対している訳ではないですよ。あなたたち政府側がおかしな言動ばかりしていることに疑問を持っているのです。意味わかりますか？誰があなたたちを信用できるでしょう？疑手ではないですか？

もう市長なんて辞めてしまわれればどうでしょう？利権を振りかざして自分のエゴで行政を進めているなんてウンザリです。迷惑被るのは島田市民だけではありませんから。たかだか一市長が日本全体を揺るがす行為をするのはやめて下さい。お願いします。

瓦礫受け入れは無理です。反対です。もうすでに静岡の物なんて買わないという被害が出てくるのですよ？

市民県民が職を失って路頭に迷っても桜井さんには関係のないことなのですかね？

皆さんからのメール

※原文のまま掲載しています。



賛成

静岡市内に住む23歳です。まず結論から言うと、私は賛成です。私は静岡県出身ですが、大学が東北だったため学生時代を東北で過ごしました。今でも戻りたいと思う程良いところです。

去年の3月11日に震災が起き、学生時代の友達も多かったために居てもたつてもいられませんでしたが、幸いにも友人は全員無事でしたが中には内定の取り消し、家がなくならない被害を被った友人もいます。

私は去年に宮城県の亶理町というところでボランティア活動もしました。そこではやはり若い人はおらず、ほとんどボランティア活動をしている方はお年寄りか、現地で家を失っているのにも関わらずそういった活動をしているという方はかなりでした。

もちろん募金もしました。もちろん復興にはお金がかかるため金額は大事だと思います。でも、そうしようという気持ちが一番大事なんだと、心にそう思った思いが生まれることが大事だと感じています。

今、島田市ではがれき受け入れ問題で多くのニュースや市長の言葉が流れ深く心にしみています。

受け入れを反対する人たちの言葉はただのわがままのように聞こえます。きつと子供たちのほうがよっぽど現状を純粋に受け止めるでしょう。

もしかしたら、東海地震が先に起こっていたかもしれない。そうならなっていたら、東北の方はきっと静岡に温かい手を差し伸べてくれたと私は確信しています。そうしたらきっと、東日本大震災が起きた時は島田市の方も誰も反対しないで協力したでしょう。ギブアンドテイクなんていう安易な考えではありませんが、人の心はそういうものだと思います。

もちろんがれきに危険があるのはいけない、けど危険であるとか危険でないとかそういうところが問題ではないと思う。国だってそんな馬鹿ではないだろうし、安全だと言っただけを信じて目の前にあるものに手を差し伸べるべき。それでも「もしも」があればその時考えればいい。それまでに全力を尽くす。風評被害とか、利益を考える場合ではないと思います。同じ国の、同じ人間が助けられなくて何が絆だろうか、それすら助けられなくて得られるものなんて何も無い。

反対の方の意見を聞いて恥ずかしく思います。あの大震災で困っている人を見て自分のことしか考

音声コードなどを導入して、ユニバーサル化を推進

◎福祉課 ☎36・7154

市では、高齢者や障害者、妊産婦や子どもを連れた人などにとって、障壁が無く誰もが利用しやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）の考えを取り入れた施設整備を進めています。今回、行政情報のユニバーサル化の一環として、市が発行する文書や印刷物に音声コードを導入し、福祉課や市民課などの窓口で計11台の「活字文字読み上げ装置」を設置することにしました。

音声コードは、文字データを2次元コード化して印刷物に添付し、読上げ装置を使うことで文字情報音声情報として利用できるものです。一つのコードに約800字記憶できます。音声コードが付いている位置を知らせるため、紙の縁に切り欠き穴（半円の穴）を開けてあります。

市内の重度の視覚障害者は、約150人。このうち、代読してくれ



音声コードと読み上げ装置



筆記補助機能付きの拡大読書機

る家族などがいない一人暮らしの人は、約20人います。これまで、そういった人については、手元に届いた文書を読む手段がありませんでした。また、代読可能な場合でも、個人情報などが他人に知られてしまうことが危惧されていました。音声コードを利用することで、目の不自由な人が他者に頼ることなく、情報を入手することができるようになります。

また、図書館や市役所の窓口などには、拡大読書機を設置しました。この機器は、本を読んだり届出書を書いたりする際に、文字が小さくて不自由を感じる皆さんに利用していただくためのものです。

市役所福祉課や市民課などの窓口、各支所に設置するこの機器は、縦14cm横20cmのコンパクトなもので、文字が画面に大きく写し出され、それを見ながら書き込みもできます。また、明暗の調整や、色覚異常に対応した画面色の切り替えも可能です。

Yes No

皆さんからのメール

※原文のまま掲載しています。

賛成

えられない人を見て不思議でなりません。

私の出身は熊本ですが藤枝に住んで40年になります。今回の震災に対して島田市が何とか力になろうとされていることに対し、人として、今は静岡県民として、心から賛同し、涙が出るほど嬉しく誇りにおもいます。

ある市長が風評被害が出たら国が補償を等と自分を守る為の発言をしていましたが風評被害を吹き飛ばす意気込みで東北の人をハックアップしようとなぜしないのか。今回の災害は東北のみの問題ではない。日本全体の問題だと思います。全国民が口だけでなく、少しでも力になろうとする事、そうすることが日本に活気を生み出し、今低迷している日本の復活になると思つ。

お茶農家でもし風評被害が出たら等と自分さえ豊かになれば良いかの如く、受け入れ反対を叫ぶ。自分さえよせの中ではあるが農耕民族の助け合って来た日本人の心は何処へ行つてしまったのだらう。東北の人も静岡のお茶を飲んで来たたらうし、今回ガレキ処理に協力出来れば益々静岡茶を心か

ら美味しく、感謝して飲んでくれるだろう。この災害を全国民に少しずつでも分けて受け持つ事が出来れば素晴らしい事です。

島田市長ぜひ考えを進めてください。島田市に取って素晴らしい事にきつとなると思っています。

【市長からのメッセージ】
島田市のホームページには「市長の部屋」があります。これまでに「賛成」「反対」など、いろいろな電子メールが送られてきています。

災害廃棄物の受け入れの方針を表明した頃は、反対のメールが大多数を占めていました。が、1月に入ってから、受け入れを賛成してくれるメールや、感謝の気持ちを伝えてくれるメールが増え、特に高校生や中学生から、応援メールをいただいています。今では、賛成が3、反対が1という割合になってきています。

私は、信念を持って災害廃棄物の受け入れを進めています。そのことが、将来を担う島田市の子どもたちのためであると固く信じています。

島田市長 桜井勝郎
http://www.city.shimada.shizuoka.jp/hisyokouhou/sityounoheyar/sityou_top.jsp

福島県南相馬市にごみ収集車を譲渡

◎環境課 ☎35・3744

東日本大震災の復興に役立ててもらおうと、市で予備車として使用していたごみ収集車1台を、被災地の南相馬市に贈りました。

1月12日に行われた出陣式では、桜井市長が「島田市民の思いとともに、被災地支援に向けてごみ収集車を届けてほしい」とあいさつ。同行する車に島田市の茶20kgと、市内の女性から寄せられたミカン200kgを積み込み、市職員の運転で南相馬市に向けて出発しました。



南相馬市に向けて出発したごみ収集車

現地では、この車両を教育施設などの廃棄物収集に活用する予定です。

石川県小松市と災害時の応援協定を締結

◎市民安全課 ☎36・7143

大規模な広域災害の発生に備えた自治体間相互の応援体制の必要性は、東日本大震災を受けて一層高まってきています。このような中、市では11月27日、互いに地元空港を災害支援に生かせるとして、牧之原市とともに、石川県小松市と災害時の相互応援協定を締結しました。

協定には、災害時の食料・飲料水・生活必需品などの救援物資の提供や、原子力災害などにおける避難民の受け入れ、そして応急復旧に必要な職員の派遣などが盛り込まれています。



協定書を交わす桜井市長と和田・小松市長

県外の自治体では、千葉県野田市、山形市、富山県水見市に続く、4都市目の災害協定締結となりました。